

③ 「よさ」を意識化させるための個人カルテの活用とその集積

これまでの個人カルテは、教師の指導のために主に使われていた傾向があった。その際に、記録の累積をするために転記する内容や量が多く、教師の負担が大きかった面が見られる。そこで、今回の実践では、児童の自己評価や教師の指導にも生かされ、更に、教師の記録の負担を軽減する個人カルテを工夫した。

「角の大きさ」の授業においては、41ページに示した「個人カルテ1」のように、右上に「私のよいところ」の欄を設け、事前調査で把握した児童の「よさ」を書かせ、常に振り返るようにさせた。毎時間ごとの自己評価の欄に、観点ごとに自己評価させ、「先生から」として教師のコメントを加えた。座席表に記録したもので指導上児童には知らせたくない内容は、欄外に添付しコピーを取り、コピー終了後記録をはがし児童に返すようにした。

「小数」の授業においては、41ページに示した「個人カルテ2」のように単元を通して意識して欲しい児童の「よさ」を一つだけにしぼり、「よさ」を赤丸で囲み矢印で示した。毎時間の終わりにその「よさ」についての自己評価をさせ、「よさ」の意識化を図った。

(5) 「よさ」を伸ばす指導

基礎的・基本的な内容の学習を終わったところで、それらの学習内容を生かして、問題作りとそれを解き合う発展学習の場を単元の最後に設定した。問題作りの場面は、児童一人一人の学習内容の理解度や定着度の違い、生活経験の違いなどが、児童の創意、工夫などの違いと絡まり、多様な問題が作られると考えた。

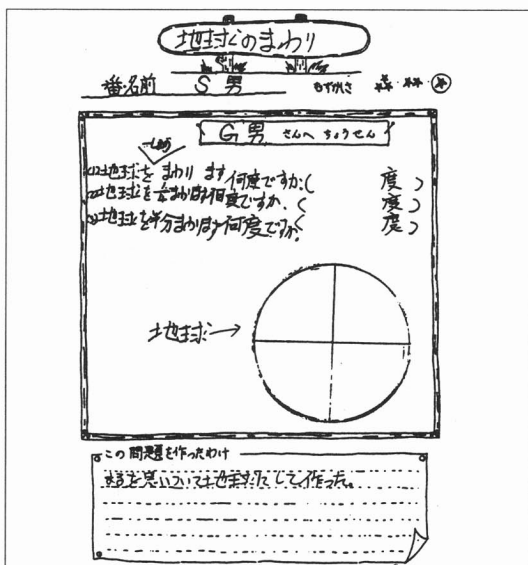
この多様な問題に、単元を通して児童一人一人の「よさ」を把握し、生かし、意識化されてきた児童の「よさ」が具体的に表われると考えた。

① 児童の「自作問題集」による発展学習の場の設定

「角の大きさ」の授業においては、下図に示したS男の例のように、問題作りの用紙に、その問題を作った意図や難易度を書かせた。また、特定の友達に問題を解かせたい場合は、相手を指名して挑戦できるようにした。

「小数」の授業においては、自由に解き合えるように相手を指名する欄を設けなかった。

「この問題を作ったわけ」の欄にその児童の問題に対する思入れが書かれ、その児童の「よさ」が表われると考えた。



② 「自作問題集」の活用による相互交流

児童一人一人が作った問題を全部印刷し、問題集として一冊にまとめた。自分が作成した問題を友達が解いてくれることは、大きな喜びとなる。また、問題を解く場合にも意欲的に好みに応じて、その子の「よさ」を十分に発揮すると予想した。解き終わった後、問題を作った児童に採点してもらい、問題についての感想を書き、それぞれの児童の台紙にその感想を貼らせた。児童は多くの友達から寄せられた感想を読むことで自分の「よさ」の意識化につながると考えた。

これら一連の発展学習を通して児童一人一人の「よさ」を伸ばすことができると考えた。